鳥見山風致保全方針

１ 地区の概況

孤高丘的な形状をした鳥見山は古くから地域の主要な景観要素となっており、麓に点在する農村集落の景観と併せて、平地からの眺望の維持・保全に配慮する必要がある。

丘陵地はそのほとんど全域が樹林地であり、麓の農村集落の背後地として、良好な自然景観を構成している。これらの緑地と農村集落との調和への配慮とともに、倉橋溜池に向かって下る緩やかな丘陵緑地の保全を図る。

２ 地区の風致特性

（１）風致構成要素

自然保全型

（２）ランドマーク

遠景：鳥見山

（３）主な視点場

国道１６９号、倉橋溜池

３ 地区の維持・創出すべき風致の内容

（１）維持・保全すべき要素

・山の陵線及び周辺の緑地（遠景～中景）
・倉橋溜池周辺の緑地（中景）
・山裾の集落の屋根並み（中景）

（２）育成すべき要素

・緑地との調和（色彩等）

４ ゾーンごとの建築物等の修景に関する方針

○ゾーン３（維持・保全区域）

【概　況】

・　鳥見山のほぼ全景を形成する樹林地である。
・　埋蔵文化財等も多いゾーンであり、山の稜線等全体景観の保全及び樹林地の維持が、今後も課題である。

【方　針】

・　丘陵の稜線上及び稜線を超える高さの建築物、工作物の設置は避ける。
・　屋根、塔屋等シルエットを形成するものは、斜面に調和する勾配のある形状とする。また、屋根、外壁等の色彩については、周辺の樹林地と調和するものとし、樹林地の中で目立たないよう配慮する。
・　工作物についても、樹林地の中で目立たない色彩とする。
・　緑の多い斜面景観を維持するため、敷地内の緑地を極力残置し、建築物、工作物周辺の緑化を促進する。

○ゾーン４（維持・保全区域）

【概　況】

・　倉橋溜池及び周囲の丘陵部分であり、地域のシンボルともなるゾーンである。
池の周囲は、レクリェーション活用等がなされつつある。
・　倉橋溜池より見渡せる丘稜斜面の緑の多い全体景観を保全しながら、活用を図っ

ていくことが課題である。

【方　針】

・　建築物、工作物は樹林に調和する色彩とする。
・　建築物は、斜面に調和する屋根形状、森林の中で目立たない色彩とする。
・　緑の多い斜面のイメージを維持するため、敷地内の緑地の残置、建築物、工作物周辺の緑化を促進する。

○ゾーン７（維持・保全区域）

【概　況】

・　丘陵の麓の集落であり、統一感のある建築形態を見せている。
・　鳥見山への全体景観の中で屋根並みは重要な要素であり、屋根並みの統一感の維持が課題である。

【方　針】

・　建築物については、形態、色彩が周囲のまちなみと調和するものとし、緑地を背景としたまちなみの統一感の維持を図る。
・　工作物についても、背景となる緑地に調和する色彩とする。
・　敷地内の緑の保全を図り、特に、道路面への緑化を図る。

○ゾーン９（育成区域）

【概　況】

・　丘陵麓の学校等公共性の高い施設があるゾーンである。
・　風致地区にふさわしい公共建築物として、周辺の緑地や集落に調和するものとする。

【方　針】

・　建築物、工作物については、周辺の緑地に調和するような色彩とする。
・　建築物周辺の敷地が大きく、全体景観への視覚的影響も大きいため、敷地内の緑地の残置、緑化に努める。特に、道路面には、中高木を配置する。